

研究課題名 (研究期間)	広域大気汚染及び地域大気汚染の対策に関する研究 (H26～H28)	
研究の概要		
<p>研究ニーズ等課題化の背景</p> <p>近年新たに常時監視の対象となった微小粒子状物質(PM_{2.5})の環境基準達成率は低い状況である。2014年2月にはPM_{2.5}の広域的な高濃度現象が観測され、県内で初めて高濃度時の注意喚起が発令された。光化学オキシダント(Ox)についても環境基準が未達成で、濃度の漸増傾向や高濃度発生地域の広域化の現象が見られる。広域大気汚染の一要因として、大陸からの越境汚染や黄砂の影響が指摘されている。これらの広域大気汚染の状況について引き続き実態把握に取り組むことが必要であり、県民への迅速な情報提供の体制が望まれている。</p> <p>一方、地域汚染対策として講じてきた大気汚染防止法や自動車NOx・PM法による規制等と合わせてPM_{2.5}濃度低減に向けた新たな取り組みが求められている。県内でも、常時監視の一環として位置づけられたPM_{2.5}の成分測定が2013年度から開始されている。実測データを活用し、PM_{2.5}や、さらにはPM_{2.5}の原因物質についても発生源に関する情報を得ることは、地域の実情に応じた低減対策を検討するうえで重要である。</p> <p>また、工場等の事故、気象状況の影響により大気汚染による健康被害が生ずるおそれがある場合などを想定した緊急時の迅速な対応が必要である。</p>	<p>第4次県環境基本計画の該当項目</p> <p>第4章 「安全・快適」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスベスト対策の推進 ・放射性物質に関するモニタリング ・大気環境の保全 ・広域環境汚染対策と県民への迅速な情報提供 <p>県関連施策名等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスベスト飛散監視 ・有害大気汚染物質調査 ・環境放射能水準調査 ・大気汚染常時監視 ・PM_{2.5}対策 ・ディーゼル自動車等運行規制 ・酸性雨監視調査 ・黄砂調査 	
<p>目的</p> <p>大気汚染物質やその原因物質について、これまでの実績や最新の手法を基に多角的な解析を行うことで、兵庫県における実態把握・汚染要因の推定を行う。</p>		
<p>内容</p> <p>大気汚染物質の測定、実測データの収集、実測データに基づいた大気汚染物質の濃度変動の実態把握、レセプターモデルや気象/大気質モデル等の数値解析による発生源解析、大気汚染予測モデルの構築に関する検討</p>		